

は不明だが、導出された遠位の電位は健常例と比較して頂点潜時の短縮と表現されると考えた。

5 逆説性うつ病を呈した臓器移植ドナーの2例

諸橋 優子・高橋 邦明・細木 俊宏

小林 真理・染矢 俊幸*

新潟大学医学部附属病院精神科

新潟大学大学院医歯学総合研究科

精神医学分野*

【はじめに】腎移植において移植が順調に行っているにもかかわらず術後にレシピエントが抑うつ状態を呈する病態を春木は逆説性うつ病と名づけたが、福西らによりレシピエントばかりでなく腎移植ドナーにも起こりうる事が報告されている。新潟大学では生体腎移植および生体肝移植に際し精神科医がレシピエント(R)及びドナー(D)の全例に対し移植前後の精神的現在症を評価しケアに関わっているが、「逆説性うつ病」と思われる肝移植Dの1例、および腎移植Dの1例を経験したので報告する。

〔症例1〕54歳女性。肝硬変の弟への生体肝移植Dを自ら希望した。術前面接では不安や抑うつ症状はなく移植に対して意欲的であった。術前心理検査では、自己の意識している心理状態を表す自己記入式心理検査では術前の不安は少なく、ストレス状況に対してバランスの取れた対処をするという結果であった。しかし比較的深い心理を投影する統合型HTPからは貧困な心的状態と自分の身体に対する著しい不安と抑圧が推察された。術後経過は、R、Dともに身体的には順調だったが、術後7日目よりDに抑うつ症状が出現した。特定不能のうつ病性障害の診断でリルマザホン1mgを投与し支持的に接した。「これで私の役割は果たした。でも予想以上に術後が辛かった。」と述べ、抑うつ症状の発現には荷おろし状況と予期した以上の身体的苦痛の関与が考えられた。

〔症例2〕48歳外国籍の女性。日本人の夫への生体腎移植Dを自ら希望した。術前面接では極軽度の不安が認められただけであった。術後経過では、R、Dともに身体的には順調だったが、手

術2日後よりDに頭痛、不安、抑うつ気分が出現した。「腎提供により家族の一員として認めてもらいたかったのに。」と述べ、術後に家族関係の改善を期待したが裏切られた思いを強く訴えた。家族内葛藤が抑うつ症状の発現に関与していると思われた。特定不能のうつ病性障害の診断でアミトリプチリン20mgを投与し徐々に症状は軽快した。

【考察】これらDの2例は逆説性うつ病と考えられる。抑うつ症状の発現には荷おろし状況、身体的苦痛、家族的背景との関連が推察された。RばかりでなくDにも起こりうる事、腎移植ばかりでなく肝移植でも起こりうる事が示された。

6 抜毛と強迫症状を呈したアスペルガー障害の一例

鈴木由紀子・増沢 菜生*

新潟大学保健管理センター

新潟大学教育人間科学部障害児教育科*

アスペルガー障害は古くから提唱されている概念であるが、脚光を浴びるようになったのはごく最近のことである。アスペルガー障害には他者と関わりたい気持ちがあるものの相手の感情や状況を配慮できず一方的な関係しか築けないために孤立しやすく、また強いこだわりのために集団生活のペースにのれないといった特徴がある。このような対人関係・社会性の障害を抱える患者たちが不安・抑うつ、被害関係念慮、暴力、不登校などのさまざまな不適応症状を呈して精神科外来を受診する場合が最近増えている。しかしアスペルガー障害に対する治療法は今のところ確立されていない。時間の限られた一般外来の中で彼らに援助できることをある症例を通して考えてみた。

症例は抜毛や手洗い強迫を主訴として初診した中学1年の女子、A子である。A子は言葉や発達の遅れを指摘されたことはなかったが、幼少期から友人と遊べず、こだわりが強い面があった。小学6年頃より抜毛や手洗いが頻回となり、こだわりのために学校や家族のペースについていけなく